

YOUNG BLOOD

つなぐ！つながる！「仲間の環」 明るい未来をきり拓こう！

JR連合 青年・女性委員会 幹事 笹岡 慎平

第12回政策シンポジウム参加

テーマ

「鉄道特性の発揮、公共交通の持続的な発展に向けて」
～「チーム公共交通」の輪を拡げ、そして「チーム地域共創」の形成を！～

平成28年10月17日(月)、高松市「レクザムホール」において、第12回政策シンポジウムが開催されました。今回は、各単組・グループ労組をはじめ、交運労協や他産別よりご来賓をお招きし総勢約550名の参加者で、将来の公共交通の在り方や2年前に提起された「チーム公共交通」の形成をベースとしてこの間JR連合が取り組んできた、「鉄道活性化プロジェクト」の活動の経過報告及び中間答申が提起され、参加者間の認識の共有が図られました。

冒頭、主催者を代表して、松岡会長から「今シンポジウムは、約4年間にわたり活動をしてきた『鉄道特性活性化プロジェクト（PT）』の中間まとめを提起する場でもあり、今年度内の最終答申策定に向けて、討議を行い、肉付けする重要な機会と位置付けている。鉄道が取り巻く現下の厳しい状況を踏まえつつ、鉄道特性をより一層発揮でき、将来にわたり、希望の持てる鉄道のあり方、方策について提起し、参加者と共に考えていきたい」とあいさつを述べられました。

第1部では、JR四国の半井社長より「四国家の一員として～わざわざ乗りに来ていただける鉄道を目指して～」についてご講演をいただいたほか、名古屋大学の加藤准教授より「『チーム公共交通』形成に不可欠な、JRに期待される役割」について、特別講演をいただきました。

第2部では、専修大学の太田教授（JR連合「鉄道特性活性化PT」アドバイザー）をコーディネーターとして、パネルディスカッションが行なわれました。パネリストには、JR連合から上村総合組織・政策局長、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局長）、加藤准教授、私鉄総連の池之谷交通政策局長、高松市交通政策課の坂東課長にご参加いただき、鉄道特性を踏まえ将来にわたった日本の公共交通のあり方、各ステークホルダーが果たすべき役割についての議論が交わされました。第3部では、単組からの報告が行なわれ、JR九州労組、JR西労組より現在抱えている政策課題や、これまでの取り組みが紹介されました。第4部では、「鉄道特性活性化PT」の経過報告及び中間答申の骨子について政所政策・調査部長より総括的に提起されました。

青年・女性委員会からも多くの仲間が参加し、地方が抱えている課題の認識や、政策活動への関心をより一層高められる機会となりました。

